

教 頭 会 報

栃木県公立小中学校教頭会
 発行者 瓦 井 康 司
 編 集 広 報 部

— も く じ —

◎会長あいさつ……………	1	◎令和5年度役員紹介……………	6
◎栃木県公立小中学校教頭会 定期総会・講演会……………	2	◎特色ある学校……………	10
◎全国研究大会（石川大会）……………	4	◎地区だより……………	11
		◎ひろば・編集後記……………	12

「哲学者の考えから思うこと」

会長あいさつ

宇都宮市立国本中学校 瓦 井 康 司



私が思うに、教員として第一に必要な資質は、「生徒」をはじめ人に信頼され、その言動に説得性があることだと、今年60歳を迎えるに当たって、そう確信している。では、その資質を高めるには「どうする？」になるが、ここで、その根拠として挙げるのが古代ギリシャの哲学者アリストテレスの考えだ。なぜ、アリストテレスか？となると、私が、宇都宮大学（内地留学、大学院派遣研修の2年半）で、故 香西秀信氏から学んだ内容がもとになってくる。

早速だが、アリストテレスの『弁論術』では、説得の手段を以下の3つに分類している。1「性格（エートス）」2「感情（パトス）」3「論理（ロゴス）」である。エートスとは？例えば、一字一句違わない同じ文章を、説得のため、次の二者が同じように述べたとしよう。Aは、裁判官や大学教授、Bは犯罪者や暴力団員である。たぶん、Aは信じ、Bは信じない。つまり、人は信頼、性格によって、説得される。パトスとは？パッション・情熱・感情のことで、情熱を持って説得すれば、ついつい納得してしまう。最後に、ロゴスとは？ロジック・論証である。根拠を述べ相手を説得するのだ。この3つの説得の手段が、どれも欠かすことなく、上手く調和・調整されることにより、人を説得できる。ここで私の杞憂は、教員が、このロゴスだけに頼ってしまうケースをよく見かける。エートス（性格・信頼）とパトス（情熱）はどうなっているのか？実にこの3つの調和・調整が重要なのである。

次に、AIやデータの社会だからこそ、「人間の直観」の大切さを述べてみたい。それについては西田幾多郎（哲学者）の著書『善の研究』の解説（情報源を忘れてしまった）から自分流に紹介するが、例えば、なんとなく直観的に入った食堂がメチャクチャうまく感動した経験があったとしよう。その店を後でネットで調べると、その評価サイトで何点と書いてあって、意外と低い時に、実はおいしくなかったんじゃないか？「よくわからないデータや他人の言うこと」そういうものに流されて、この食堂での出会い、純粹経験「うまっ」「おいしい」がどっかに飛んで行ってしまう現象。西田氏はそういう時、「直観」の方を選択しろと言う。どうして我々は、数字で表した、量で表した方に従ってしまうのか。ここで私が思うに、データに従うのも道理だが、人を教育する立場上、この「人間の直観」を大切にしたい。それは科学的根拠を無視しろと言うことでは無く、今まで学んだ知識や経験それら全てを抱擁した上で、自己の直観を信じなければ、真に自己が無くなる。また、この「人間の直観」を磨くのが、長い年月をかけて行う「教育」そのものなのだと思う。

会員の皆様方におかれましては、まずは自分の目の前に居る子供たちのために、より良い教育の推進を目指し、日々奮闘していることと思います。今後も会員相互の協働からの研究をより一層充実させていかねばなりません。皆様方のご理解・ご協力を賜りますよう、切にお願い申し上げます。

栃木県公立小中学校教頭会 定期総会

総会並びに研修会に初めて参加して

宇都宮市立岡本小学校 鈴木 宏美

「第61回定期総会並びに研修会」に参加しました。当日は会員受付係としてロビーに立つ中で、本会が、多くの役員及び事務局の方々の連携・協働により支えられていることや、会場に県内各地区から会員が集まり、あちこちで会話に花を咲かせている様子から、本会が会員同士の交流や情報交換の貴重な場となっていることなどを強く感じました。また、総会での令和4年度の事業報告や令和5年度の事業計画案・予算案等からは、本会の活動が本県の教育の発展に寄与し、いかに充実したものであるかを再認識しました。

さて、研修会の部における「記念講演」では、大阪大学名誉教授、小野田正利先生の御講話を拝聴しました。講話題は「保護者対応トラブルのステージが上がった！」です。「現代は、クレーム・苦情から逃れることは不可能な時代であり、それらをトラブルに発展させないためにも、法的知識を基盤とした誠実な対応が必要である。」「相手の立場に立つと見えるものがある。子供を間に置き、共に成長を喜び合う存在が保護者と教師である。」など、教頭として、日々保護者対応に苦慮している先生方の姿を目の当たりにしている私にとって、学ぶところの多いお話でした。また、最後には、「どんとこい！イチャモン！」と胸に書かれたTシャツを着ながら、「トラブルには必ず終わりがくる。」「冷静に子供の前に立つことができるよう、教師自身の心と身体が何よりも大切である。定年まで元気で！定年後も健康で！」と笑顔でおっしゃられた先生の言葉に、会場内の多くの会員が頷いていたのが大変印象的で、私自身も大いに勇気づけられました。



大変有意義な総会並びに研修会でした。

定期総会並びに研修会を通して感じたこと

宇都宮市立新田小学校 高橋 正和

5月30日(火)に開催されました「栃木県公立小中学校教頭会第61回定期総会並びに研修会」に参加させていただきました。昨年度は参加できなかったため、初めての参加となりました。また、会員受付という役割をいただき、少し緊張しながら車を運転し、教育会館に向かいました。新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、初めての参集型での開催となりました。受付をさせていただきながら、マスクを外している先生方も増えていましたが、まだまだマスクや消毒への意識、感染対策への意識の高さを感じました。さらに、先生方の表情や声のトーンからも、これからは、辛抱することなく、構想を実践できるという意欲のようなものも感じました。それだけ重い物を抱えながら耐えていたのだらうと思います。

研修では、大阪大学名誉教授 小野田正利先生から「保護者対応トラブルのステージが上がった！～法的知識を基盤とした誠実な対応を～」についてご講演をいただきましたが、まるで演劇を鑑賞しているかのように、私の心を掴み、講演に引き込んでくださいました。保護者との関わりについては、日々悩みながら対応している部分が多いため、先生の熱いお言葉に何度も救われました。今後のエネルギーもいただきました。本当にありがとうございました。

令和5年度の事業計画を、より一層充実し発展させられるよう、会員の皆様と共に考え、実践に努めてまいります。そして、子供たちのより良い成長につながるような学校経営の充実を図ってまいります。今まで長年に渡り、ご尽力をいただいた諸先輩方に感謝し、それに恥じぬよう全力で役割を果たしてまいります。



講演会

講演会に参加して



佐野市立界小学校 小林 昭宏

「教育委員会、何やってんだ。学校はたった一人の保護者で困っているんだ。何とかしてやれ～！！」講師の怒気を含んだ大きな声が会場に響き渡った。こんな形で始まる講演会は、初めてである。講師の小野田正利先生は、話し方は金八先生、公演スタイルは綾小路きみまろ氏ということで、笑う場面が多く、とても楽しくお話を聞くことができた。

さて、講演の内容だが、今回のテーマ「保護者対応トラブルのステージが上がった！～法的知識を基盤とした誠実な対応を～」は、多くの学校が今抱える保護者対応のノウハウに関する事で、大きな期待をして聞くことができた。このところの保護者対応については、保護者が法的なことも含め勉強して訴えるようになってきたため、文書による

回答を求めてくるようになるなど、対応が極めて困難になった。トラブルになれば、対応する教職員が苦痛を伴うような内容になってきているということである。そうした保護者にどう対応したらよいか…、というお話をしていただいた。本校の職員に、この講演内容について、後日伝達しようと考えているので、先生の話を中心に、私なりに以下にまとめてみた。

- ①クレームや苦情は山ほどある。「人生の3割はクレーム対応」だということ、それらをトラブルにしないように努めることが大切。
- ②クレームや苦情等からトラブルになることは、誰も逃れることが不可能な時代になっており、トラブルになった場合、「難しいトラブルの解消や解決は少しずつ行う」こと。解決できない場合もあることを知っておくこと。(補足すると、保護者がパーソナルの偏りや鬱、適応障害等の傾向により、どんなに話をしても理解されないこともあるということ)
- ③ヘリコプターペアレント（過保護な親が、学校や先生のやることをいろいろ見渡して対応を求めてくる親のこと。モンスターペアレントは、アメリカで児童虐待をする親のことを言うので、使い方は間違いだそう…）の振り上げた拳を下ろさせるためには、「話をまず聴いて、共感する、そこからできることを、法的視点を踏まえて考え、対応をしていく」こと。
- ④教師の思いと親の思いのズレを埋めるために、相手の立場で考えてみること。「話は70%くらいで聴き、30%の余裕（あそび）をもって聞く」こと。
- ⑤日々の記録は音声データで残すこと。(先生御推奨の方法です。詳しくは事務局へお問い合わせ下さい。)

私は講演を聞いて、ズバリ、「保護者対応にはマニュアルはない」、保護者によって様々だということに改めて気付かされた。同じようなケースがあったからといって、同じような対応をしたからうまくいくというような簡単な話ではないということである。これからは、自分でまとめた⑤つのポイントを踏まえ、余裕と少しの自信をもって保護者の対応を学校全体で取り組んでいこうと思った。

全国研究大会 石川大会報告（全体会）

全国研究大会石川大会にオンライン参加して（記念講演）

さくら市立押上小学校 齋 藤 美由紀

今大会の記念講演は、展示会の企画・運営などを行う専門職キュレーターであり、現在は金沢21世紀美術館館長として活躍されている長谷川祐子氏から「豊かな感性を育む場所をつくる」という演題でお話を聞くことができました。

館長として数々の展示・企画・運営に携わる中で、美術館に人が来る要素は「多様性」「いつも同じものがない」であり、楽しさのある場所であれば人は集まってくると感じているそうです。金沢21世紀美術館においてそれは実践されており、作品はどれも個性的で、見る人に驚きや変化を感じてもらえるような展示内容になっていました。いつ来ても新しい発見があり、別の視点を与えてくれる学びがあることは、感性を育むことにつながります。居場所にもなります。学校現場に通じる内容であり、魅力ある学校づくりへの大切なヒントをいただきました。

また、今必要なのは取捨選択できる力であり、これができる世代をどう育てていくのか、そのためにどのようなネットワークを作り上げたらいいのかを考え、現在は新たなエコロジーとアートを融合させた企画展や市民を巻き込んだ協働の場づくりに積極的に取り組んでいるとお話されていました。

管理職としての姿勢や「マネジメント」への気付きを得ることができました。



一貫しているのは「関係性をもたせ価値付けする」ということです。学校教育全般においてこれを意識しながら日々子供たちや先生方と向き合っていきたいと思いました。

全国研究大会石川大会にオンライン参加して（シンポジウム）

佐野市立西中学校 篠 崎 淳

「ふるさとに誇りをもち 未来を切り拓く心豊かな人づくりを目指す これからの学校運営の推進」というテーマで3名のシンポジストを迎えて約2時間行われた。

加賀屋旅館グループ女将、長谷川明子氏の話は、従業員が1,000人を超える会社で新人の育成を任される立場にあり、「失敗をチャンスに変える」「誰にも負けないものを1つでもいいから身に付ける」「どんどん迷って、そこから見つけましょう」という方針で進めている中で、若者が気持ちよく仕事ができるように、ほめ方や注意の仕方などをよく考えて指導に当たっているということであった。湘南学園長の住田昌治氏は、「働き方改革というのは働き方を自分で決めることで、明るく元気に仕事ができることが大切」「楽しいこと、やりたいことは先にやる、脱後回し！」というウェルビーイングを実践してほしいとのことであった。加賀市教育長の島谷千春氏は2児の母親という立場で教育長の職に就いている教育長であった。クラスの全員の子供が意欲をもって授業に取り組める「授業改革」を目標にして加賀市全体の改革を進めていた。「自分で考え、決めたことは意欲をもって行える」という考え方は子供たちにも教員にもあてはまることなので、多くの課題はあるけれども失敗をおそれず進めていく方針だということであった。



全体として「自立」「自走」という「自分で考え決めたことを、責任をもって取り組むこと」が健康な心でよい仕事をするための秘訣であると感じた。

石川大会報告（分科会）

全国研究大会石川大会 第4分科会に参加して

那珂川町立馬頭東小学校 山本 政宏

第4分科会『組織・運営に関する課題』に参集型で参加しました。3名の提言と、それに対し6名程度で23グループに分かれ協議を行いました。

1つ目は「異校種間連携を円滑に行うための効果的な教頭の関わり」という北海道の教頭の提言です。義務教育学校設立、小中一貫校設立、幼小中の連携と教頭の関わりの発表でした。組織づくりや校内外の連絡調整、連携を効果的に行うための役割が参考になりました。必要感をもって連携に参加できる組織づくりの推進、家庭や地域、行政との連携の必要性を学びました。



2つ目は「組織力・指導力を高めるための効果的な教頭の関わり」という岐阜県の教頭の提言です。若手育成の方策、中堅のリーダー意識を高める教頭の補佐についての発表でした。協議では指導力・自己肯定感を高めるために教頭がどう関わるかを話し合いました。教頭として組織を活性化し、教職員一人一人の指導力を高めていくことが重要であると考えました。

3つ目は「同僚性を育み、互いに高め合う組織づくりの実現と教頭の関わり」という石川県の教頭の提言です。研修の充実、中堅教員の参画意識の向上、組織的な若手育成と教頭の関わりについての発表でした。協議では、ベテランと若手教員の両極の職員構成の中、人材育成における教頭の役割は重要であり、教職員が主体的に組織運営に参画する仕組みづくりが、同僚性を高め、互いに成長する組織づくりの実現につながると考えました。

提言や全国各地の取り組みについて情報交換をすることで視野を広げることができました。このような貴重な研修の機会をいただいたことに心から感謝申し上げます。

全国研究大会石川大会 第2分科会にオンライン参加して

宇都宮市立陽東中学校 宮堀 宏恵

第65回全国公立学校教頭会研究大会石川大会2日目の第2分科会「子供の発達に関する課題」にオンラインで参加させていただきました。私はオンラインで岩手県、熊本県、千葉県、三重県、京都府の先生方とグループ協議を行いました。まず、「専門スタッフとの情報共有と連携のための体制づくり」を協議の柱とし、「不登校生徒に対する支援と不登校防止対策のための体制づくりー教員と専門スタッフ及び関係機関等との連携を通してー」をテーマとした提言がありました。提言を受け、各学校での学習の場の保障や居場所づくりについて、人間関係づくりや対話する力をつけさせるための取組などについて協議しました。次に、「未来を切り拓く力を育む 小中一貫教育を推進する副校長・教頭の役割」を協議の柱とし、「小中一貫教育を推進する教頭の役割ーたくましく生きようとする力の育成ー」をテーマとした提言がありました。提言の中の「さわやか部会」という6年未満の若手の教員が互いに悩みを共有しあう部会を設置し、児童生徒だけではなく若手教員の育成も推進しているということを受け、「人材育成」ということについても協議をしました。最後に、「幼小中（高）、家庭地域をつなぐ副校長・教頭の役割」を協議の柱とし、「豊かな心を育む教育活動における教頭の関りー幼小中連携、家庭・地域が連携した取組を通してー」をテーマとした提言がありました。協議後、「10歳までの成長と10歳からの成長」について指導助言をいただきました。3つの提言・協議・指導助言を通して、「人の力を活用するコーディネート力」が副校長・教頭に求められていることを強く感じました。大変有意義な分科会であり、このような貴重な機会を与えていただけたことに深く感謝いたします。



役 員 紹 介



会 長
瓦 井 康 司
(宇都宮市立国本中)

結成61年目となる県教頭会の会長として、一期一会の言葉通り、例年では経験できない色々な方との出会いがあり、多くの人たちに支えられていることを実感しています。私の休日は、海や山へと誘われ、曖昧な自然の造形を眺めている時が、とても幸せです。この一年間、精一杯努めます。どうぞよろしくお願いいたします。



副会長
豊 田 浩 一
(宇都宮市立古里中)

本年度、副会長を担当することになりました。よろしくお願いいたします。ちょっと暇のできた休日には、日帰りドライブにいきたいと思っています。先日は、只見を通して六十里越峠をぬけ、新潟へ行ってそばを食べて、群馬を回って帰ってきました。走行距離640kmでした。



副会長
鈴 木 淳 司
(宇都宮市立国本西小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。瓦井会長、役員の方、事務局の方々と連携しながら、教育の振興および教頭職としての資質・能力の向上に資する研究等について、教頭会の運営に尽力したいと思います。1年間、御協力をよろしくお願いいたします。



副会長
小 森 正 伸
(宇都宮市立横川中)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。教頭会の運営が滞りなく進みますよう、瓦井会長、役員の方、事務局の方々と連携しながら取り組んでいきたいと思っています。微力ではございますが、教頭会の発展のため尽力したいと思います。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



副会長
小 林 昭 宏
(佐野市立界小)

瓦井新会長及び役員の方、事務局の方々と連携をしながら、副会長職に取り組んでいきたいと思っています。私は現在、公益財団法人宇宙少年団佐野分団の長を務めています。宇宙飛行士を目指す科学好きな子供たちを集め、月一回程度、佐野市こどもの国を拠点に活動をしています。学校外の子供たちと好きなことができるのがとても楽しいです。



副会長
須 藤 敦
(大田原市立蛭田小)

今年度、副会長を務めさせていただくことになりました。会長を補佐し、事業が円滑に進むよう取り組んでいきたいと思っています。新型コロナウイルス感染症で大きく変化した世の中と向き合いながら、休日には散歩を楽しんでいます。呼吸を意識し、のんびり歩くことで、周囲に目を向ける余裕が生まれるため気に入っています。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



幹事長
水 口 武 雄
(宇都宮市立陽東中)

今年度、幹事長を仰せつかり、役員会や理事会、定期総会、研究大会などで業務に携わります。微力ではありますが、これまでの経験を生かして、教頭会の更なる発展のために寄与していきたいと思っています。休日には、スポーツクラブで汗を流したり、B.LEAGUEシーズン中には支持チームのテレビ観戦や、子供とともに会場へ出向いて夢中になって応援をしています。



庶 務
山 野 井 純 夫
(宇都宮市立岡本北小)

初めての役員として庶務を仰せつかり、会議の進行等を担当させていただいております。県教頭会の円滑な運営に向け、微力ながら務めて参ります。昨年度まで、いちご一会とちぎ国体・とちぎ大会の開催準備業務に携わり、6年ぶりの現場は、初めての小学校で毎日が新しい発見の連続です。趣味はジョギングと映画鑑賞です。どうぞよろしくお願いいたします。



庶 務
藤 井 崇
(宇都宮市立陽北中)

今年度、初めて県教頭会の庶務を担当させていただくことになりました。会員の皆様をはじめ、事務局や役員の方々と連携を図りながら、理事会や研修会の司会進行に精一杯努めてまいります。微力ではございますが、どうぞよろしくお願いいたします。週末は、ウォーキングで健康維持に努めています。



会 計
武藤 紀子
(宇都宮市立五代小)

今年度で県教頭会の会計3年目になります。コロナ禍でもコロナが収束しつつある今でも教頭職は多忙を極め、その大変さを皆さんが痛感していると思いますが…私は、忙しい中にもOFFの時間を大切にしています。自分の健康のことを考える年齢でもありますが体を動かすことが好きなので、時間を見つけてはダンスやヨガのサークルに出掛けてストレスを解消しています。



会 計
田中美由紀
(宇都宮市立西原小)

今年度、会計をお引き受けすることになりました。県教頭会の運営が滞りなく進んでいきますよう、事務局の皆様や役員の皆様と連携を図りながら、微力ではございますが精一杯努めて参りたいと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。休日は、高齢の両親を連れて食事に行くなど、できるだけ親孝行をしています。



全国総務・調査部員
穂本 忠明
(宇都宮市立今泉小)

今年度、全国公立学校教頭会の総務・調査部員を務めさせていただくことになりました。全国小中学校の副校長・教頭による調査に基づき、教育現場の実態を的確に把握し、教育活動の充実、教員の働き方改革に向けた要請活動の充実に努めたいと思います。また、総務・調査部の活動を通して得た全国の情報を、様々な場面で発信していきたいと思っております。ご支援・ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。



全国広報部員
石川 裕之
(宇都宮市立築瀬小)

本年度より、全国公立学校教頭会専門部員を務めさせていただくこととなりました。機関誌や教頭会通信、ホームページ等の作成を行います。会員の皆様に、研究大会の取組や最新の教育課題への対応などをお伝えできるように尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



研究部長
大木 和明
(宇都宮市立姿川第一小)

昨年度に引き続き、研究部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。会員の皆様と相談しながら、瓦井会長を支え、第13期全国統一研究主題に沿った研究を進めていきたいと思っております。私の趣味は、スポーツ観戦です。今年は、バスケットボールとラグビーのワールドカップが楽しみです。



調査部長
坂本 弘志
(宇都宮市立雀宮中)

今年度、調査部長を引き受けすることになりました坂本弘志と申します。最近、肩が上がらず、人生で初めて湯治のための温泉探しをしています。現場では、コロナ明けの対応や危機管理など、解決が難しい問題が山積みですので、有益な情報発信ができるよう努めて参ります。どうぞよろしくお願いいたします。



広報部長
山口 和彦
(宇都宮市立雀宮東小)

広報部長を務めさせていただきました。2年目となりました。本年度も教頭会事務局の皆様、役員の皆様と連携を図り、会報を発行させていただきたいと思っております。私の休日の楽しみは読書です。ジャンルは様々ですが、日常のあわただしさを、ひと時忘れさせてくれる大切な時間となっています。



要請部長
鮎瀬 寿久
(宇都宮市立富士見小)

今年度、要請部長を仰せつかりました。皆様のご意見、ご要望を現場の声として要請してまいります。微力ではありますが精一杯取り組みたいと思いますのでご協力のほどよろしくお願いいたします。最近の休日は、庭の草木の手入れをし、小さな畑で野菜を栽培することとドライブやトレッキングを楽しんでいます。



IT部長
若林 直行
(宇都宮市立白沢小)

今年度IT部を担当させていただくことになりました。休みの日は、山歩きや読書を楽しんでいます。会長を支え、会員の皆様方のご支援・ご協力をいただきながら、感染症拡大防止に取り組み、子供たちにとっても、教員にとっても「魅力ある学校づくり」に取り組んでまいりますので、ご支援・ご協力の程どうぞよろしくお願いいたします。



副幹事長
宇梶 誠司
(那須塩原市立稲村小)

今年より副幹事長となりました宇梶誠司です。よろしくお願いいたします。休日は、おいしいお店でお昼を食べるのが楽しみです。麺類が好きなので、ついついラーメンやうどん、そばの店に足が向いてしまいます。最近は県北名物のひたし天そばやうどんを「うんめえ！」と心で叫びながら食べています。



幹事
鈴木 宏美
(宇都宮市立岡本小)

本年度、初めての役員として幹事を担当させていただくことになりました。休日は愛犬と公園で遊んだり、美味しいパンとコーヒーを求め、ドライブに出かけたりしています。瓦井会長のご指導の下、役員及び事務局の皆様との連携・協働を大切に、微力ながら精一杯取り組んでまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。



幹事
須甲有美子
(上三川町立本郷北小)

昨年度に引き続き、教頭会幹事を務めさせていただくことになりました。趣味は、友人と旅行に行き、美味しいものを食べることです。今年は、昨年より出掛けることができるかなと思っているところです。そして、今年度も、職員室は明るくしたいという思いであります。教頭会においても、微力ではありますが課題の解決に取り組んでいきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



幹事
吉川 真弓
(宇都宮市立旭中)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきましたことになりました。たいへん未熟ではありますが、皆様のお力添えをいただきながら、教頭会の活動の充実に向けて精一杯努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。私はスポーツ観戦が好きで、特にBリーグやWリーグなどを見て、応援を楽しんでいます。



幹事
福田 靖彦
(日光市立落合中)

今年度も幹事を務めさせていただきましたことになりました。休日の楽しみは、子供と遊ぶことです。まだ小さく、今後の成長に備えて体力づくりのため走ったり、筋トレをしたり、楽しみながら行っております。教頭経験も浅く微力ではございますが、精一杯頑張らせていただきますのでよろしくお願いいたします。



幹事
半田 高代
(芳賀町立芳賀東小)

17歳になる愛犬との帰宅後の散歩が、癒しのひとときとなっている今日この頃です。何気なく幹事をお受けしてしまいましたが、皆様のご迷惑にならぬよう努めたいと思っております。よろしくお願いいたします。



幹事
稲葉 聖
(小山市立間々田小)

今年度、初めて県教頭会の幹事を務めさせていただきましたことになりました。栃木県公立小中学校教頭会という大きな組織の責任ある役職であり、十分に責務を果たすことができるか不安ですが、できる限り精一杯務めさせていただきます。1年間、どうぞよろしくお願いいたします。



幹事
仲井 順
(佐野市立佐野小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきましたことになりました。栃木県公立小中学校教頭会という伝統ある組織の役職で、責任の重さを感じております。微力ではありますが、先輩の役員の皆様にご教示いただきながら、教頭会の行事運営等に精一杯務めてまいります。よろしくお願いいたします。



幹事
根岸美登里
(足利市立梁田小)

今年度、初めて教頭会幹事を務めさせていただきましたことになりました。趣味はいくつかありますが、中でも、スキー仲間とコブ斜面等を滑り楽しみ、温泉につかった後、ご当地グルメを食し、たわいない会話で笑い合うその仲間との時間が、わたしにとっては格別の楽しみです。今年度は、その機会を増やしていきたいと思っております。



研究副部長
加藤 雅継
(宇都宮市立上河内中)

上河内中に着任して2年目を迎えました。瓦井会長の下、研究を深めていければと思っております。よろしくお願いたします。上河内中のすぐ北には「お羽黒山」があり、地域のお祭りの後、羽黒山清掃と称して生徒が奉仕活動を行っています。休日に時間があるときには、お羽黒山に登りました。素晴らしい眺めでした。



研究副部長
高橋 正和
(宇都宮市立新田小)

今年度も引き続き、研究副部長を務めさせていただくことになりました。昨年度の経験を生かし、2年目であることを十分に受け止め、瓦井会長の下、大木研究部長にご指導をいただきながら研究を深め、会員の皆様とともに、教育界、教頭会の発展のために尽力してまいりたいと考えております。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



調査副部長
吉田 保
(上三川町立明治南小)

昨年度に引き続き、調査副部長を務めさせていただくことになりました。調査等を通じて、副校長・教頭の現状や実態を把握し、先生方へ調査結果をお伝えできればと思います。微力ですが、本会のために尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



調査副部長
鈴木 則子
(宇都宮市立国本中央小)

今年度より、調査副部長として県教頭会専門部役員をお引き受けすることになりました。調査部の仕事を通して、学校現場の現状や実態を的確に把握するとともに、調査報告書が、先生方に役立てていただけるものとなるよう、精一杯努めてまいりたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



広報副部長
村松 保子
(宇都宮市立昭和小)

広報部の副部長として、会員の皆様の交流・情報交換の場となるよう、事務局や部員の皆様と協力して会報作成に携わってまいります。休日には、司書さんからのおすすめの絵本や推薦図書などを借りて読んでいます。別世界に入り込めるのがいいですね。時折、読み聞かせに使えるそうだなと教員の顔が出てきますが…。1年間どうぞよろしくお願いいたします。



広報副部長
鈴木 克明
(宇都宮市立若松原中)

微力ながら今年度も広報副部長を務めさせていただきます。休日の元気と時間がある時はプロスポーツ観戦に出かけ、ビールを片手に試合を楽しんでいます。応援チームは栃木SC、東北楽天、千葉ロッテです。今年度も県教頭会をはじめとして多くの先生方にお世話になり務めを果たしていきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



要請副部長
郡司 隆文
(那須塩原市立大山小)

今年度、要請副部長を務めさせていただくこととなりました。長男長女の部活の追っかけも終了し、休日は府中や中山、阪神、京都などで行われているスポーツを手に汗握りながら観戦するのが専らの楽しみです。微力ですが、本会のために尽力していきたいと思っております。どうぞよろしくお願いいたします。



I T副部長
小杉 由美
(宇都宮市立宮の原中)

引き続きI T部で活動させていただきます。教頭会の活動をとおして多くの先生方と関わる機会をいただき、視野を広げることができました。今年度も部長を補佐し、県や地区の活動を積極的に情報発信していきたいと思っております。休日は、日本全国の焼き物の産地を巡る計画を実行中です。まずは「日本六古窯」制覇を目指しています。



I T副部長
福田 隆行
(宇都宮市立豊郷中)

休日の過ごし方は、少し前に始めたゴルフ関連で、練習やゴルフショップ巡り、たまにコースをラウンドしています。いつまでたっても上達しませんが、緑豊かなゴルフ場でマイナスイオンをたくさん浴びながら、リフレッシュ&ストレス発散しています。(思うようにならず逆にストレスをためているという話もありますが…)。

郷土芸能を伝承し、地域がつながる「獅子舞体操」

日光市立小林小学校 福田 亮子

郷土に伝承されている「関白流小林獅子舞」を元にして、本校では「獅子舞体操」を教育活動に取り入れています。始まりは今から約40年前。「地域の伝統芸能保存、子どもたちの体力作りと集団の中で協力し合う気持ちの育成」を目的に、高学年児童を対象に行われました。当時の新聞記事に、「体全体を使って表現する獅子舞は約5分間の踊りだが、かなりの運動量になり、体力づくり、敏捷性、体の表現性などが養われる。また、全員が協力して踊り、用具もみんなで作るといふことで、協調性も身についてくる。」と指導者が語っています。（「とちぎ朝日」昭和55年5月16日発行一部抜粋）



当時は昭和55年開催の栃木国体の頃で、「獅子舞体操」は、国体のアトラクション他、多くの場面で披露されました。現在は、小学校3年生から中学校3年生までの児童生徒が、小中合同運動会で、「関白流小林獅子舞」の笛吹き手の音色に合わせて、「獅子舞体操」を披露しています。

本校では、総合的な学習の時間に「関白流小林獅子舞」や「獅子舞体操」を調査してまとめたことから、郷土芸能を理解して伝承の重要性に気付きます。運動会に向けて1学期から練習も行われます。その際には、昭和55年当時に教員として実際に指導した方や児童として体操を披露した方々が、指導に来てくださいます。6年生は、下級生へ舞を指導しています。活動はまさに、郷土芸能を伝承し、地域がつながる「獅子舞体操」として、今もなお大切に教育活動に位置付き、受け継がれているのです。

ボランティアの方々に支えられて

足利市立けやき小学校 松浦 敏夫

本校は、現在児童数275名の中規模校で、足利学校や鑊阿寺が学区内にあります。地域や保護者の方々は学校への関心が高くとても協力的で、日々多くの方々に支えられていることに感謝しています。特に本校で保護者の方にお世話になっている活動を2つ紹介します。



1つめは、「図書ボランティア L I V O」さんたちの活動です。保護者や本校を卒業した児童の保護者も含め、32人で子供たちのために活動しています。10年以上活動を続けている方も数名います。毎週木曜日に全教室で読み聞かせをして、その後自主的に図書館の環境整備を行っています。読み聞かせのない日でも、週に2日はボランティアの方が自主的に来校して頻りに作業しています。特に力を入れているのは、「読書に親しみやすい図書館の環境作り」で、毎月コーナーが次々と入れ替わります。読書週間には、図書委員会の児童と図書ボランティアの方々がコラボして、楽しい体験コーナーを設置しています。いつ行っても楽しい素敵な図書館です。



2つめは「けやき先生」です。1年生が入学してから5月の連休明けくらいまでの約一ヶ月、毎日クラスに1・2名保護者の方がお手伝いに来て、朝から放課後まで児童の支援に入っています。登校後の荷物の整理から、様々な学校生活のお手伝い、学習に向かうための支援など、1年生が独り立ちするのを温かく見守ってくれます。けやき先生をお願いして6年目になりますが、入学したばかりの子供たちがスムーズにスタートを切ることが、「落ち着いた学校」につながっていると感じています。本当に保護者の皆様に感謝しています。

「魅力的な学校づくり」を目指して

宇都宮市・上三川町小学校副校長会長 鈴木 淳 司

本会は、会員である副校長・教頭の資質を高めるための研修と親睦を図ることを目的とし、宇都宮市立小学校69校の副校長71名（2校が複数配置校）と宇都宮大学共同教育学部附属小学校の教頭1名、上三川町立小学校7校の教頭7名の79名で組織されています。

本年度は、第13期全国統一研究課題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」の3年次研究の初年度にあたり、第12期の研究課題の成果と課題を踏まえ、5つの研究課題の視点に対し、10班に分かれて研究を推進しています。

研究成果は、各学校で実践・評価し、学校教育の課題解決に役立つものとなるように研究年次ごとに整理し、県研究発表大会、及び宇都宮市・上三川町小学校副校長会全体研修会の開催や研究収録にまとめることなどをおして継続研究が生かされるようにしています。これらの研究が副校長・教頭の職務について、協働性や関与性を高めながら、職務内容を実践的に追究するとともに、職務機能の充実を図る機会となるよう努めています。

また、本会では、現代的な教育課題について専門的な知見を持つ講師を招き、管理職として必要な専門性の向上に努める研修内容を全体研修会に位置付けています。本年度は、宇都宮市教育センター 石川 忠 副主幹・指導主事を講師に招き、「特別支援教育の推進に係る副校長・教頭の役割」について講演をいただき、インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進について理解を深めるとともに、学校運営における副校長・教頭としての役割についてご指導をいただきました。

予測が困難で複雑な課題を抱える学校現場の現状や変化への対応を進めつつ、今後の展望を見据え、「魅力的な学校づくり」を目指して会員相互に研鑽を積み、副校長・教頭としての資質の向上に資する会の運営に努めていきたいと思ひます。



芳賀地区小中教頭会の取組

芳賀地区小中学校教頭会長 櫻井 輝 之

芳賀地区小中学校教頭会は、真岡市23校、益子町7校、茂木町5校、市貝町4校、芳賀町4校、会員数44名（1校は複数配置校）で構成されています。

研究部、調査部、広報部があり、できる範囲で無理なく活動を続けています。特に、研究部員を中心に研修会を行い年間延べ14回の集まりをもつと同時に、様々な学校課題に対して話し合うなど横の繋がりを大切にし、一人職としての教頭の不安解消にも努めています。芳賀地区の本年度の研究課題は、組織運営に関する課題です。6月の会議で、「若手教員の育成」というテーマで研究を進めていくことになりました。

一方、5月に新型コロナウイルス感染症の感染症法上の位置づけが、5類へ移行したことで、教育活動の様々な制限がようやく終結を迎えようとしています。同時に、教職員の研修会も元に戻り、目を見張るほどの多種多様の研修があり、働き方改革とは逆行しているように見えます。研修は意味ある事ですが、現場に児童生徒を残して参加することは、他の教員に余分な負担を掛ける事にもなります。また、本地区では、今年度も定数欠員のままで、4月にスタートを切った学校も数校あります。いずれの学校も教頭を中心に授業の補填や学校業務全般の補充を行っています。

人、物、金がなくてもできる働き方改革には、みんなで話し合うことと知恵が必要です。これからもコミュニケーションを大切に取組を継続していきたいと思ひます。

我が家の家族

宇都宮市立若松原中学校 鈴木 克明

我が家には3匹の愛らしい猫が家族にいます。「マイケル」「みずほ」「あいのすけ」という名前です。日常では「あい・まい・みー」と呼んでいます。

マイケルは、18年前に我が家に迷い込み、住みついてそのまま家族に迎え入れました。東日本大震災をも生き抜いた猫です。だいぶ高齢になってきていて、今や少々介護が必要であるが、食欲旺盛で元気です。

「みずほ」は、9年前、当時勤務していた中学校で車のボンネットに迷い込み、保護された猫です。3匹の中では唯一女の子で、一番人懐こい性格で、よくスリスリしてきます。

「あいのすけ」は、妻が「どうしても茶トラがほしい」と知り合いからもらってきた猫です。いたずら盛りで、食欲旺盛。ごはんを見つけては何でも食べてしまい、結果ブクブクと太って一番体格のよい猫となっています。

ペットを我が家に迎えると自分自身が癒されるとともに、家族の会話もそれまで以上に増えました。命の尊さを日々感じ、心も優しくなる日々です。本当に良いことだらけです。いつまでも家族全員で豊かで、大切な時間を過ごしていきたいと思う今日この頃です。

新任教頭として

下野市立国分寺中学校 稲葉亜希恵

新任教頭として赴任し、3か月が過ぎました。たったこの数か月の間にも、学校が地域の方々と密接につながっているのだなあ実感できる場面が何度かあり、「地域とともにある学校」を具現化することの大切さと難しさを体感していました。そのような折、一人の生徒から「どうして教頭先生は、教頭先生になったのですか」と神妙な面持ちで質問をされました。過去に「先生はどうして英語の先生になったのですか」と聞かれたことはありましたが、この質問は初めてだったので、とっさの返答に詰まり到底生徒が納得するような回答を返すことができませんでした。生徒たちのために自分は何をしているのだろう、何ができているのだろう・・・具体的に見える形として何か自分ができることはないのか考えました。自分の役目の一つとして、学校の経営方針はもとより、日々頑張っている生徒や先生方の姿を少しでも保護者や地域の方々に理解してもらい、子供たちを家庭や地域のみなさんで育てていく温かい土壌を作っていくことが挙げられます。そこで、学校のホームページの更新を今まで以上に行い、少しでも学校と保護者、地域の方々との懸け橋になるよう、情報配信を充実させていきたいと思います。

ビギナー登山家雑感

大田原市立金田南中学校 栗原 崇志

世界各地で様々な宗教が信仰されている。ある本によれば、キリスト教やイスラム教などは、砂漠などの厳しい自然環境下で生まれた。環境が厳しいから、人はすぐに命を落としてしまう。そこで人々の命を守るためにあのような戒律があると考えられているらしい。仏教は熱帯のインド。様々な生物がどんどん生まれては死ぬ。そこから輪廻転生の考え方が生まれたのかもしれない。そして日本の神道。これはどういう考えから発生したのだろう。ところで私、数年前に登山を始めた。きっかけは、生きている間に富士山に登りたい、ついでに、ときどき覗くアウトドアショップに陳列されている魅力的なグッズたちを「正当な理由で」手に入れたい、ついでに、どさくさに紛れてソロキャンプグッズもほしい、という邪な気持ちからである。そんな邪念だらけの登山家でも、実際に登ってみると、山道に咲く四季折々の花、抜けるような青空、時に畏れを感じるほどの表情を見せる空にそびえ立つ頂。美しく、時に厳しさも見せる豊かな大自然の中に、八百万の神々が宿ると考えるのは至極自然なことであった。昨今、登山者のマナーの悪さが叫ばれているが、このような気持ちをもって登れば、どの山も美しく輝き続けるはずである。

編集後記

まさに「猛暑」といえる夏が過ぎ、ようやく少しずつ秋めいてきました。会員の皆様には、いかがお過ごしでしょうか。

さて、今回の会報では、定期総会や各地区の活動、石川県で開催された全国大会の報告等を掲載させていただきました。

学校を取り巻く環境は日々変化し、様々な対応に追われがちですが、当会報が少しでも会員の皆様の参考になれば幸いです。

末筆ながら、お忙しい中、原稿を執筆してくださった皆様に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

(山口)